

第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

イベント名	地球規模データのダウンスケーリングと流域水資源環境の解析 Water Environment Analysis in the River Basin by Using Global Data with Downscaling Methodology
主催者	京都大学防災研究所水資源環境研究センター
開催日	2007年12月 <input type="checkbox"/> 1日 <input type="checkbox"/> 2日 <input type="checkbox"/> 3日 <input type="checkbox"/> 4日 <input type="checkbox"/> 5日
開催時間	2007年11月30日 午後1時～5時
開催場所	<input type="checkbox"/> 別府市内 <input type="checkbox"/> 大分県内 <input checked="" type="checkbox"/> その他
会場名	メルパルク京都
参加人数	約50名

開催概要 (900字以内)

地球規模での気象・水文観測データやGCMでの出力結果を利用して、世界の異常気象の推定と地球温暖化の影響分析の現状と方向性を探った。また、流域へのダウンスケーリング手法の比較、温暖化による社会経済活動と影響回避・軽減策、などについて議論した。詳細は以下のとおりである。

プログラム：

1:00 ～ 1:10 開会挨拶

小尻 利治 (京都大学防災研究所)

第1部 ダウンスケーリング技術の現状と今後の動向

司会： 田中 賢治 (京都大学防災研究所)

1:10 ～ 1:50 推進費 S-5-3「温暖化影響評価のためのマルチモデルアンサンブルとダウンスケーリングの研究」の概要

高藪 出 (気象庁気象研究所)

1:50 ～ 2:30 領域気候モデルWRFを用いた地球温暖化による日本の冬期積雪の影響評価

原 政之 ((独)海洋研究開発機構 地球フロンティア研究センター)

2:30 ～ 3:10 水文分野への応用のための降水量の統計的ダウンスケールについて

鼎 信次郎 (東京大学生産技術研究所)

第2部 流域水資源環境の解析と予測に向けて

司会： 堀 智晴 (京都大学防災研究所)



## 第1回アジア・太平洋水サミット オープンイベント開催記録

3:30 ~ 4:00 温暖化と関連した異常降雨ならびに今後の災害環境影響評価の取り組み  
中北 英一 (京都大学防災研究所)

4:00 ~ 4:30 地球温暖化に伴う日本流域の将来水資源・生態シミュレーション評価  
浜口 俊雄 (京都大学防災研究所)

4:30 ~ 5:00  
総合討論

### 日本水フォーラムに期待すること (600字以内)

特にアジア域における水管理、水災害のリスクマネジメントに対して、学術分野と行政・民生部門との対話・協調体制を、その地域・流域の特性を踏まえつつ促進できるような場の提供に尽力していただければと思います。

### その他 (オープンイベントを開催した感想、今後の予定など、600字以内)

京都大学防災研究所水資源環境研究センターは、本年創立 30 周年を迎える運びとなりました。それを記念して、2008 年 11 月 20 日に  
International Symposium on Hydrology, Hydraulics and Water Resources Aspects on Global Water Issues for 30th Anniversary of Water Resources Research Center  
を開催し、地球規模の水問題に対する今後のアプローチについて議論する準備を進めています。

